二〇二三年一二月一五日

落葉屑払ひフリマの古書漁る　澄子
青空と紅葉揉み合ふ水鏡　康子
団欒の窓辺に灯る聖樹かな　あひる

二〇二三年一二月一四日

存問の声二階から布団干し　そうけい
四温晴まず外まはりから掃除　明日香
老い母にルーペを贈るクリスマス　せいじ
呑気さを夫に褒められ日向ぼこ　あひる
黄落し空の面積広がりぬ　もとこ
空家なる実家に灯す聖樹かな　うつぎ

二〇二三年一二月一三日

青空に幾何模様なす枯木立　康子
日短遺品整理の逡巡と　むべ
入日いま低く貫く枯木立　素秀
古暦腰張とせる茶寮かな　むべ
思ひがけぬ芯の熱さよ蕪汁　素秀

二〇二三年一二月一二日

枯芝にホースとぐろを巻き無聊　澄子
寝込む子の粥へ落とせる寒卵　かえる
ゴンドラの人着ぶくれて窓掃除　やよい
顔見世に華を添へたる舞妓衆　千鶴

二〇二三年一二月一一日

加湿器の吐息間欠泉に似し　素秀
街中が綺羅星となるクリスマス　澄子

二〇二三年一二月一〇日

菰巻かれてんでに傾ぐ蘇轍かな　康子
うたたねの膝に季寄せや日向ぼこ　もとこ
聖夜劇ポニーテールに星揺れて　なつき

二〇二三年一二月九日

静謐な池面へ紅葉散りやまず　せいじ
小春日に伸ぶ職安の最後尾　なつき
太陽光パネル突き抜け末枯るる　明日香
白障子閉めて独りを諾へり　うつぎ
日記果つ住き日の頁読み返し　康子

毎日句会みのる選・二〇二三年一二月一七日